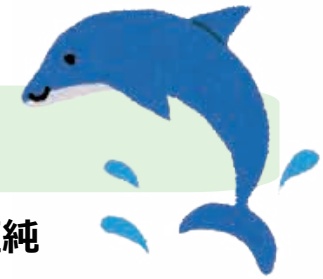
和歌山県立
日高高等学校
SGH通信
第21号
2020年12月4日

SG 課題研究Ⅱ・フィールドワーク (6)
地域文化分野・その２

記録写真　B02 班「伝統料理からわかる歴史」



A06 班「イルカ漁」

活動概要

捕鯨（イルカ漁を含む）は現在太地町で行われているが、捕鯨の行われていない日高地方でも昔から鯨の肉が食べられてきた。この答えを探ろうと、当地方でも代表的な漁村である印南を訪れ、漁業史や伝統文化に詳しい印南町文化協会会長の坂下緋美氏からお話を伺った。

坂下氏からは、昭和の時代には印南では現在よりも盛んに鯨肉が食べられていたことや、印南でも江戸時代に捕鯨に乗り出した時期があったことを教えていただいた。また、私たち人が生きるために生き物の命をいただくという点においては鯨（イルカ）を食べることも家畜を食べることも同じではないかという問いを逆にいただくなど、今後の研究を進めるうえで多くの示唆をえることができた。

活動報告　２年３組　濵本亜純

フィールドワークでは、実際に、貴重なお話を伺うことができた。クジラ料理は昭和30年代頃によく食べられていて、すき焼き、フライ、刺身にして食べられていたらしい。印南ではイルカ漁は行っていなかったため、質問に答えてくれた坂下さんも食べたことがないそうだ。逆に、捕鯨は江戸時代から行っていた（現在は行っていない）ので、多く捕れていたらしい。昔に比べて、クジラを捕る量が減少しているため、私たちが食べる習慣も自然と少なくなったのだろうと考えた。

外国の人は、クジラを捕りに行った船を妨害するなど、捕鯨への反対意見が多い。坂下さんご自身は、捕鯨やイルカ漁への批評についてはニュースや新聞などでしか見聞きしたことがないためコメントはしづらいが、今、私たちが牛や豚を殺して食べることと何も変わりがない、イルカ漁は地域の文化でもあるし、もう少し調べて、いろいろ知ったうえでコメントしたいとおっしゃっていた。私も、もし毎日の食事でイルカやクジラが並んでいたら、私は普通に食べていただろうと思う。それが、今は牛と豚・鶏になっているだけだ。捕鯨は太地町の人たちの文化でもあるということで、私は賛成するだろうと、このフィールドワークで考えた。

フィールドワークをとおして、このテーマについてもっと調べて、外国の人にも認めてもらえるようにしたいと思った。